

本書は、立命館学園創立者 中川小十郎の生誕150年を記念して上梓する、研究論文/史料図録集です。

今日の立命館学園の母体である京都法政学校が創立されたのは1900年。20世紀を目前にした日本社会が、急速に近代化/グローバル化をなしつつあった時期でした。1866年に京丹波馬路村に生まれた中川小十郎は、世界主義教育を提唱した西園寺公望との運命的な関係のなかで、世界大にひろがる経済社会で活躍する若者を育てる開かれた学びの場として、京都法政学校を創立しました。現在、多様なグローバル人材を輩出する本学は、学祖西園寺公望の精神と創立者中川小十郎の創意を脈々と受け継いでいます。

昨年、立命館 史資料センターは、生誕150年を記念した講演会や史料展示会を各地で開催し、地元亀岡の協力が得られたことで、記念行事を活況のうちに終わらせることができました。また、漫画『立命館人物伝 立志の気概 中川小十郎 立命館創立ものがたり』の配付によって、立命館の歴史を学ぶことができる裾野を広げ、これまでほとんど無名の人であった中川小十郎の名を多くの人に知ってもらうことができました。本書は、学術的観点から中川小十郎という人物やその周辺を検証することを目的に、本センター所属の調査研究員らが同所蔵の『中川家史料』を活用した研究論文を世に問うものです。また、2016年10月の企画展をベースに、中川の事歴を示す重要史料を図録として採録しました。2020年の立命館学園創立120周年へ向け、「私学」立命館の独創性とアイデンティティを、歴史を振り返りながら考えていきたいと思っております。

未筆ながら、本書刊行にいたるまでに、史資料提供や共同企画に参画していただいた、亀岡市歴史文化資料館、NPO法人中川小十郎先生顕彰会、大同生命保険株式会社、日本女子大学、財団法人平井嘉一郎財団、また、多くの関係機関や個人のみなさまに深く感謝申し上げます。